

第147回 日商簿記検定試験 2級 一工業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 本社工場会計

(1) 材料の倉庫搬入時の仕訳

材料の倉庫搬入時について、代金の支払いは本社が行っているため、本社勘定を増額させる。

(借) 材	料	3,230,000	(貸) 本	社	3,230,000
-------	---	-----------	-------	---	-----------

※素 材…8,000kg(購入数量)×400円/kg(購入単価)=3,200,000円

消耗器具…

30,000円

合 計 3,230,000円

(2) 材料消費時の仕訳

製品用の素材を消費したため、直接材料費となり、仕掛品勘定に振替える。なお、月次総平均法により払出単価の計算を行っているが、(1)の消耗器具を含めないように注意が必要である。

(借) 仕	掛	品	2,376,000	(貸) 材	料	2,376,000
-------	---	---	-----------	-------	---	-----------

※仕掛品…{2,000kg×380円+8,000kg×400円}×6,000kg(払出数量)/10,000kg(当月合計数量)
=2,376,000円

(3) 賃金消費時の仕訳

直接工は全て直接作業を行っているため、その賃金は直接労務費として仕掛品勘定に振替え、間接工賃金は全額間接労務費となるため、製造間接費勘定に振替える。

(借) 仕	掛	品	4,480,000	(貸) 賃	金	5,960,000
(〃) 製	造	間	接	費	1,480,000	

※仕 掛 品…3,200時間(直接作業時間)×1,400円/時(予定総平均賃率)=4,480,000円

製造間接費…1,500,000円(当月賃金支払高)+100,000円(当月賃金未払高)

−120,000円(前月賃金未払高)=1,480,000円

(4) 経費の計上

経費は、製造間接費勘定で処理し、支払は本社が行っているため、本社勘定を増額させる。

(借) 製	造	間	接	費	100,000	(貸) 本	社	100,000
-------	---	---	---	---	---------	-------	---	---------

(5) 原価差異の計上

製造間接費の予定配賦額と実際発生額との差額を原価差異勘定に振替える。

(借) 製	造	間	接	費	50,000	(貸) 原	価	差	異	50,000
-------	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

※原価差異…3,520,000円(予定配賦額)−3,470,000円(実際発生額)=50,000円(有利差異又は貸方差異)

※ 借方差異と貸方差異

予定配賦を行った場合の製造間接費勘定をイメージすると、実際額が借方に集計され、予定配賦額が貸方に記入される。そのため、貸借差額により予定と実際のずれを示す原価差異が把握される。

製造間接費			
実 際 発 生 額	3,470,000	予 定 配 賦 額	3,520,000
原 価 差 異	50,000		
	3,520,000		3,520,000

本問の原価差異は、実際発生額が予定配賦額を下回っており、企業に有利な影響を及ぼしているため、有利差異と判断される。

この原価差異を原価差異勘定に転記すると次のようになり、原価差異の勘定の貸方にあるため、有利差異＝貸方差異ともよばれている。不利差異の場合は借方に生ずるため、借方差異とよばれる。

原 価 差 異	
	製 造 間 接 費 50,000

第5問 標準原価計算

1. 仕掛品勘定の作成

パーシャルプランによる標準原価計算を採用しているため、当月投入原価は実際発生額により仕掛品勘定に記入される。

仕 掛 品			
実際発生額	月 初 有 高	540,000	完 成 高 2,400,000
	直 接 材 料 費	1,817,000	月 末 有 高 490,000
	加 工 費	594,000	標準原価差異 61,000
		2,951,000	2,951,000

※月初有高：300 円/個(製品単位当たり直接材料費)×1,500 個(月初仕掛品数量)

+100 円/個(製品単位当たり加工費)×1,500 個(月初仕掛品数量)×60%(加工進捗度)=540,000 円

完成高：400 円/個(製品単位当たり標準原価)×6,000 個(当月完成品数量)=2,400,000 円

月末有高：300 円/個(製品単位当たり直接材料費)×1,400 個(月末仕掛品数量)

+100 円/個(製品単位当たり加工費)×1,400 個(月末仕掛品数量)×50%(加工進捗度)=490,000 円

標準原価差異：貸借差額

2. 月次損益計算書の作成

(1) 売上高…1,200 円/個(販売単価)×6,200 個(販売数量)=7,440,000 円

(2) 月初製品棚卸高…400 円/個(製品単位当たり標準原価)×600 個(月初製品数量)=240,000 円

(3) 当月製品製造原価…400 円/個(製品単位当たり標準原価)×6,000 個(当月完成品数量)=2,400,000 円

(4) 月末製品棚卸高…400 円/個(製品単位当たり標準原価)×400 個(月末製品数量)=160,000 円

(5) 標準原価差異…仕掛品勘定より

(6) 販売費及び一般管理費…2,540,000 円(販売員給料)+526,000 円(地代家賃)

+388,000 円(水道光熱費)+305,000 円(その他)=3,759,000 円